

# チャの被覆栽培におけるカンザワハダニ多発要因の検討

○吉田達也・内山徹  
静岡県農林技術研究所茶業研究センター

## 緒言

カンザワハダニ *Tetranychus kanzawai* (以下、カンザワ) はチャを加害する重要害虫で、多発するとチャの品質や収量を低下させる。近年、静岡県ではチャの被覆栽培の面積が増加しているが、被覆栽培が盛んな他県の生産現場では、チャを被覆した場合、カンザワによる被害が目立つ事例があるという。そこで、一番茶期におけるチャの被覆栽培がカンザワ被害に及ぼす影響について調査した。まず、茶樹を被覆することにより、カンザワによる被害芽率およびカンザワ個体数が増加するか調査した。次にそのメカニズムについて、非生物的要因(温度、湿度、紫外線強度)および、生物的要因(チャの葉の質、天敵)両者の観点から検討した。本講演では、これらの調査結果から、なぜ、チャの被覆栽培においてカンザワによる被害が多発するのか考察する。

## 方法と結果

### 被覆がカンザワ被害・個体数に及ぼす影響

静岡県茶業研究センター内やぶきた成木園において、茶樹を被覆ネットにより 20 日間(2019/4/18～5/8)、直接被覆した。対照区には被覆をせず、各処理 3 反復(うね)設けた。被覆 20 日後、茶樹の摘採面における新芽をランダムにサンプリングし、カンザワによる被害がみられた芽の割合およびカンザワ個体数を処理間で比較した。

新芽の被害率は、被覆区において、被覆をしなかった区と比較して、有意に高くなった。カンザワ個体数は処理間で有意な違いがみられなかった。

### 被覆によるカンザワ被害多発要因の検討

被覆前、各試験区の茶樹の摘採面に温湿度センサーおよび紫外線センサーを設置し、被覆期間内における温度、湿度、および紫外線強度を計測した。あわせて、被覆が天敵個体数に及ぼす影響を調べるため、被覆前、各試験区の茶樹の株元にファイトトラップを設置し、被覆終了後にカブリダニ類捕獲数を数えた。また、被覆がチャの葉の質(栄養・防衛形質など)に及ぼす影響を調べるため、被覆期間後期に、各処理の新葉および古葉における、カンザワの産卵数および選好性を調査した。

被覆区では、被覆をしなかった区と比較して、平均温度が低くなり、平均湿度が高くなった。これらの傾向は特に晴天下でみられた。紫外線強度は、晴天時に、被覆区で小さくなった。また、各処理区の新葉および古葉から作成したリーフディスクをカンザワに選択させた場合(被覆区：新葉 vs 古葉、無被覆区：新葉 vs 古葉)、両処理区において、カンザワは新葉を有意に好んだ。カンザワ産卵数は、古葉よりも新葉で有意に多かった。

A study on factors causing outbreaks of damage by spider mites *Tetranychus kanzawai* in tea covering culture.

Tatsuya Yoshida, Toru Uchiyama

Tea Research Center, Shizuoka Research Institute of Agriculture and Forestry